

第 25 回堺市新型コロナウイルス対策本部会議議事要旨

日 時：令和 3 年 5 月 29 日（土） 午前 10 時 00 分～10 時 50 分

場 所：堺市役所本館 3 階 大会議室

- 議 題：1. 本市の新型コロナウイルス感染症患者の状況等について
2. 大阪府の要請内容等について
3. 国・大阪府の対応を踏まえた今後の本市の対応について
4. 本市のワクチン接種の状況について
5. その他

【開会にあたり市長より】

- ・緊急事態宣言が 6 月 20 日まで延長されることとなった。本市の感染状況は、4 月中旬から下旬にかけて 1 日あたり新規陽性者数が 120 人を超える日があったが、5 月中旬には 50 名前後、現在は 20 名前後と減少傾向にある。市民・市内事業者の皆様のご協力のおかげであり、心から感謝申し上げる。
- ・一方で、現在も医療体制はひっ迫した状況が続いており、再度の感染拡大が起きれば、さらに厳しい状況になる。
- ・第 4 波が急拡大した要因は、英国株の影響が強いと考えているが、関西ではさらに強力と言われるインド株の感染が確認されている。
- ・宣言が延長された意味は、ここで気を抜かず、さらに気を引き締めて対応に臨むということ。
- ・市民の皆様には、マスク着用、手洗いなどの基本的な感染対策を徹底していただきながら、不要不急の外出自粛、人流を抑える取組についても引き続き協力をお願いしたい。
- ・本日は、大阪府の対策本部会議の検討結果も踏まえ、本市の対応について協議したい。

【議題説明及び質疑】

1. 本市の新型コロナウイルス感染症患者の状況等について（健康福祉局長）

（※資料 1 参照）

- ・自宅療養者は 246 人となっており、5 月 9 日現在の 829 人から大幅に減少してきている。

（中野副市長）

- ・第 4 波を振り返ると、自宅やホテル療養者への十分なケアが行き届かないことで症状が悪化し、さらに重症病床をひっ迫するという状況が生じていた。
- ・第 1 波から第 4 波まで、感染者数の底の水準は上がってきている。起こらないとは言い切れない第 5 波をいかに遅く、山を低くするかが重要。
- ・新たな感染症と闘うぐらいの認識で対策を打っていかないといけない。

2. 大阪府の要請内容等について（危機管理監）

（※資料 2 参照）

3. 国・大阪府の対応を踏まえた今後の本市の対応について (危機管理監)

(※資料3参照)

(総務局長)

- ・5月21日時点の本市職員の出勤削減の実績は32%、時差出勤の実績は25.5%であった。今後も目標を達成できるよう、各局・各区においては引き続き取り組んでもらいたい。

(中区長)

- ・地域の方より、市からの呼びかけがマンネリ化しているのではとのご意見があった。区公用車からの放送を聞いているのは高齢者が多いように思う。例えば、ボーイスカウトの子どもたちの声で呼びかけることで、市民の皆様に効果的に訴えかけることを提案したい。

(市長)

- ・市民の皆様の行動変容に結びつけるために、誰に向けてどのような内容を発信するかを検討する必要がある。伝わりやすい内容とするよう検討すること。

(健康福祉局長)

- ・原則週に1回実施している市内の感染状況のホームページ公表について、今後は英国株による感染とインド株による感染を分類し、さらなる注意喚起に繋がるように、分かりやすく発信する予定である。

4. 本市のワクチン接種の状況について (健康福祉局理事)

(※資料4参照)

- ・高齢者へのワクチン接種状況は、対象者のうち約6割が予約済、約3割弱が1回以上接種済となっている。
- ・7月末を目標としている高齢者接種を少しでも早く完了するために、接種数の拡充、接種会場の増設を実施した。

【閉会にあたり市長より】

- ・同じ呼びかけを繰り返しているだけでは効果が薄い。防災行政無線や区公用車による発信内容を検討することとあわせて、各関係機関、団体への呼びかけについても、現在の局面に応じて、どのように取り組んでもらいたいのかを適切に伝え、危機意識が緩まないよう、行動変容につながる取組を進めること。
- ・本市のワクチン接種は円滑に進んでいるが、感染の再拡大を防ぎ、ワクチン接種を迅速に進めることで市民の皆様を守るという意識を全職員が共有し、各局・各区で思いつく限りの感染対策を徹底するように。